

「地域防災減災コミュニケーションワーキンググループ」 2026 年度第1回交流会を開催しました

開催日時:2026 年7月3日(金)15:30~17:00

開催場所:埼玉大学総合研究棟1F シアター教室

参加者:28人(12団体、2個人)

参加企業・個人・団体:損害保険ジャパン株式会社／社会福祉法人邑元会しびらき／武蔵野銀行／ネットヨタ東埼玉株式会社／分譲マンション地域ネットワーク／株式会社中川製作所／株式会社ゼンリン／日本防災プラットフォーム(防災 DX 官民共創協議会)／埼玉りそな銀行／さいたま市 都市総務課、都市計画課／埼玉県危機管理防災部災害対策課／埼玉大学社会変革センター地域レジリエント社会研究部門／2個人

Ⅱ交流会プログラム

開会挨拶 埼玉大学社会変革研究センターレジリエント社会研究部門・菊池雅彦 部門長
全体での情報・課題共有

ワーキンググループのこれまでの活動について

ワーキンググループの今後の活動について

参加者との方向性の確認

プレセミナー・地域課題の共有

社会福祉法人邑元会しびらき 施設長・相浦卓也さん

セミナーを受けたディスカッション

4つグループにわかれ、プレセミナーを受けた意見・感想交換

全体共有

まとめ

今後の活動の方向性についての確認

交流会では、「地域防災減災コミュニケーションワーキンググループ」の昨年度の活動を振り返るとともに、今後は、地域防災・減災に関わる課題と、ワーキンググループのメンバー、それぞれの持ち味(独自性・特色・強みなど)を生かした、連携による課題解決の方策を探ることを目指していくことを確認しました。

そのうえで、地域課題の共有として、今回は、ワーキンググルー



プメンバーの社会福祉法人邑元会・障害者支援施設しびらき施設長の相浦卓也さんから、2017年、2019年に大きな被害をもたらした水災害の経験についてお話いただきました。災害後、報道等をみて、近隣住民や他の事業所などが多数支援に集まり、復旧活動にあたったとのことでした。また、また、過去の災害時の経験として、避難所が開設されたもの



の、障害のある人やその保護者の多くが、「地域の人に迷惑をかける」と自宅滞在を選択したとのことのお話もあり、障害のある人たちの避難を想定した避難所の在り方を考えていく必要があることが話されました。

後半は、ホールにうつり、4つのグループにわかれ、それぞれ、感想を交換しあうと同時に、日ごろの取り組みについても情報交換をしました。

地域防災減災コミュニケーションワーキンググループでは、今年度、さらに、地域課題の共有をすすめながら、ワーキンググループメンバー間の連携による課題解決に向けた動きをつくっていきたいと考えています。また、この先も広く、本ワーキング(コンソーシアム)への参加を呼び掛けていきます。

